

環境から始めるSDGs取組のすすめ ～取組事例集～

一般社団法人 埼玉県建設業協会版



埼玉県 環境部



株式会社島村工業

日々の事業活動とSDGsのゴールのつながりを理解することで、社員一人一人の意識を醸成

●取組のきっかけ

当社の取組の基礎には、経営理念『創造－自然との調和』があり、それに基づいた取組が結果としてSDGsの推進につながってきたと考えています。

また、社長自らが会社の取組の方向性を発信することで、社員一人一人の「一生懸命取組もう」という意識が醸成されてきました。

●SDGsの取組

・SDGsゴールとの関係性の理解促進

土木工事は公共工事が多いため、公共工事を請け負っている立場としての責任を持って、環境の取組やSDGsの推進に特に積極的に取り組んできました。

当社の若手社員の中には、当社で取り組んでいる内容を、SDGsの17のゴールごとに整理して、わかりやすく示すといった積極的な取組も出てきています。

日頃の取組が、SDGsのどのゴールに関係しているのか整理することで、社員のSDGsの理解促進につながるとともに、会社として

何ができていて、更に何をすべきなのかが明確になり、更なる取組につながっていると感じています。

・社内の省エネ化の推進

本社の社屋は30年を経過し、またフロアが細かく仕切られておらず空調の効率化が難しい構造のため、照明のLED化やエレベーターを省エネモデルにリニューアルするなど、エネルギー使用量の削減を意識した、できる限りの取組を行っています。

また、令和3年度からデマンドコントロールを導入し、空調機の使用エネルギー低減による温暖化防止とともに電力使用料金を削減する、一石二鳥の取組になっています。

・ペーパーレス化の推進

コピー用紙の納品業者から、当社が地域で紙の使用量が多いと知らされたことをきっかけに、ペーパーレス化の取組を意識するようになりました。

これまで、紙で集計・管理を行っていた勤怠管理や社有車の運行日誌をデータ化するところから始めました。最初は若干の混乱

もありましたが、結果的に、紙の使用量の削減だけでなく、集計時のミスの削減や事務の省力化にもつながっています。

・新たな取組の積極的な推進

社員からの提案や取組は、積極的に採用するようにしています。

例えば、当社では、太陽光発電設備による発電事業を行っています。ホームページ等に掲載している太陽光パネルの航空写真は社員自らがドローンを使って撮影しています。



社員撮影の太陽光パネル航空写真

また、県土整備事務所で当社社員が講師となり、ICT技術に対する受発注者双方の理解促進を狙った勉強会を実施しました。



ICT技術勉強会の様子

・社員の働く環境の整備

最近では、女性の作業員や現場監督も増えてきていることから、現場に設置するトイレには、女性専用のものを設置し常に清潔に保つようにするなど、女性が安心して働しやすい環境づくりに努めています。

社員一人一人が安心・安全に働ける環境を整えることは、より良い事業や取組につながるものとして大切にしています。



女性専用快適トイレの設置

・社員への呼びかけ

日頃から、基本的な取組を中心に社員に対し呼びかけを行っています。例えば、自動販売機の横には、ペットボトルキャップ専用

の回収ボックスを設置し、回収したキャップはワクチン用として寄付を行っています。

●SDGs定着のための取組

各部門長が集まる会議を毎週実施しています。そこで社長から、社として取り組んでいることや方針について共有し、それを部門長から各社員に伝えることで、定期的に社としての意識共有を図っています。

●SDGsに取り組んだメリット

これまで会社として取り組んできたことが間違いではなかったと再認識できたこと、これまでの取組を「SDGs」という別角度からの見方をすることで、社員の捉え方や意識の変化がありました。

●他社へのメッセージ

建設業協会支部での河川清掃や、ロードサポート活動を継続的にやっているの、まずはそのような活動を改めて見つめなおすことから始めると良いと思います。

「当たり前に行っていることは、特にPRする必要はない」と思っている方も多いかもしれませんが、当たり前に取り組んでいること自体が当たり前ではなく、さらに継続することというのは非常に重要な点です。あらゆる機会をとらえて、社内外に発信していくことで、更なる取組にも広がります。

SDGsの取組は続けること、「持続可能」であることが大切であり、持続可能なことは日々の事業活動につながっています。当社の若手社員のように、今やっていることを数え上げ、それが何につながるのかを再確認しながら日常の業務に照らし合わせていくと、SDGsも身近なものになるのではないのでしょうか。

●会社概要

株式会社島村工業

本店 比企郡川島町大字牛ヶ谷戸489

設立 昭和26年12月28日

代表取締役 島村 健

HP : <https://shimamura-k.co.jp/>



中原建設株式会社

自由な発想と「共感」の輪を広げることを大切に、社員一人ひとりが楽しみながらSDGsを推進

●取組のきっかけ

SDGsが発表された際、まずその意味を理解することから始めました。すると、弊社が以前から掲げる環境宣言がSDGsに繋がっていることがわかりました。その宣言の一文に『私たちは企業人である前に、ここで暮らす一人の人間として、豊かな未来の環境のために、できることから取り組みたいと考えています。』とあります。そのためSDGsの取組はその必要性に共感する社員が多く「どれだけ社会貢献しながら仕事ができるか」をより強く意識しているようで、今では社員自らの提案を元に前向きに取り組んでいます。

●SDGsの取組

・社員の取組の見える化

弊社では、社員一人一人の自由な発想を大切にしています。社員自らのアイデアや取組は、技術企画グループが吸い上げて、社内外に積極的に発信しています。その際に大切にしていることは、可能な限り成果を数字で示すなど、社員の取組を「見える化」することです。

例えば、弊社では事業所と現場においてペットボトルキャップの回収活動を実施していますが、毎月の回収量とそれにより寄付できたワクチンの数を、取組の成果として社内報やサイネージ等の掲示板、安全大会等の様々な機会を利用し、周知しています。

その結果、社員は自らの取組にどのような意味があるのか、どんなことに役立っているのかを実感し、更なるアイデアの提案などの、取組に対するモチベーションにつながります。

また、安全大会で周知することで、現場の協力会社の皆さんにも当社の取組を知ってもらうことができ、社外にも協力の輪を広げることができています。



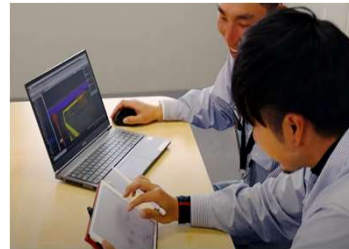
キャップの回収の周知ポスター

・社内のDX化の取組推進

会議の際は、本社と各事業所に配置した大画面モニターで資料共有を行いながら、WEB形式で実施しています。資料の電子化

により紙の使用量が削減されるとともに、会議のオンライン化によって社員の車移動が減り、CO₂の排出削減とともに業務の効率化にもつながっています。

また、これまで建設業はベテランが若手に教えるという構図が一般的でした。しかし、DX化の推進によって、逆にデジタル技術に強い若手社員が先輩や上司に教えるという場面が増え、一方的に「教える」「教えられる」の立場に固定されるのではなく、お互いに教えあい、新しいコミュニケーションが生まれています。



タブレットを用いた打合せ

・建設業における将来の担い手育成

中学生から大学生までの各年代にあった体験学習を提供しています。

大学生には、インターンシップの受入や現場見学会を行い、高校生には授業の一環としてアスファルト施工の実習を行っています。また、中学生には、弊社が登録している、川口市の職業体験プログラム「夢ワーク職場体験事業」として、建設業の基礎やインフラ整備の大切さを学ぶ機会を提供しています。

年代に合わせたプログラムを提供し、早い時期から建設業を知ってもらうことで、将来を担う人材の育成につながると考えています。また、子供たちにとっては「建設業」という「建築」のイメージが強いのですが、「土木」という仕事や、持続可能な社会のためには、インフラ整備が重要であり、そこに建設業が大きく貢献できることを知って



大学生を対象とした現場見学会の様子

もらうことで、建設業のやりがいをPRできていると感じています。

●SDGs定着のための取組

SDGsを社内に浸透させるためには、社員が互いの取組に対して「共感」を持つことが重要だと考えました。一人一人が、自分ができることを考えて楽しみながら取り組めるよう、提案されたアイデアには「まずやってみよう」という「共感」の姿勢をとるようにしています。すると、提案する側も、さらに「共感してくれる人」を増やすにはどうすればよいかを考え、同僚や先輩に相談するなど、より積極的な行動が生まれるようになりました。

●SDGsに取り組んだメリット

自社の取組が持続可能な社会に貢献しているということや建設業としてのやりがいを再認識し、前向きに取り組む姿を対外的に発信できたことで、建設業界の人手不足が課題となっている中であっても、20代の社員が増えるなど安定的な人材確保につながっています。

●他社へのメッセージ

SDGsの取組は、特別むずかしいことでも、非常にお金がかかることでもありません。

誰かが、自分にできることを楽しみながら始めれば、それに「共感」してくれる人が必ずいるはず。そしてそれが更なる共感の輪を生み、取組が持続可能になるとともに、企業や個人の成長にもつながります。

ぜひ、積極的に楽しむことを意識しながら、自由な発想で、できることから取り組んでみてはいかがでしょうか。

●会社概要

中原建設株式会社
本社 川口市柳崎5丁目2番33号
設立 昭和37年6月
代表取締役社長 中原 誠
HP : <https://nakahara-kensetsu.co.jp/>



真下建設株式会社

トップ自らの発信により、日々の取組がSDGsにつながっているという意識を共有して自分ごと化

●取組のきっかけ

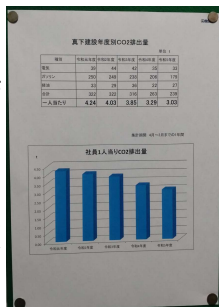
当社はSDGsに取り組む以前から、社長のリーダーシップのもと、環境の取組を積極的に行ってきました。

SDGsの考え方は、社の中期スローガン「多様性、感動と挑戦、調和」とも合致するものだったため、これまで取り組んできたことがそのままSDGsにつながるものとして、自然な流れで進めてきました。

●SDGsの取組

・CO₂削減量の見える化

自動車の走行距離や燃料使用量から、各社員の燃料消費量・CO₂排出量の見える化を行っています。集計結果はグラフ化して、社内の廊下などに掲示することで、社員一人一人の省エネや温暖化対策に対する意識の向上を図っています。



CO₂排出量のグラフ掲出

この取組は、CO₂排出量の削減・エコドライブの実践による環境配慮に加えて、燃料使用を抑えることによる経費削減や、安全運転・交通事故の減少にもつながる、一石三鳥の取組です。

●地元小中学校等への学習教材の寄贈

創業90周年を記念し、児玉郡市内の41の小中学校、県立本庄特別支援学校及び図書館に「土木のずかん」を寄贈しました。防災やインフラ、生活基盤、環境問題などの観点から、土木技術について写真やイラストで分かりやすく説明されています。

本教材を活用してもらうことで、子どもたちに土木という仕事について知ってもらう、土木業界に興味を持ってもらうきっかけにつながっていると感じています。



寄贈した「土木のずかん」

●地域の清掃活動

川の国応援団や彩の国ロードサポートの取組に参画し、地域の清掃活動に取り組んでいます。定期的に除草作業やごみ拾いを行い、近隣にお住まいの方や周辺の学校に通う学生の皆さんが気持ちよく利用できる道路環境づくりに貢献できることに、社員も喜びや充実感を感じながら取組を続けています。



彩の国ロードサポートの活動

●建設工事時の廃棄物の発生抑制

下水道管等の既存管の更生工事により、管路の長寿命化を行っています。さらに、工事を行う際は、既存の管の中に新しい管を入れるという、廃棄物の発生抑制につながる工法を積極的に採用することで、環境に配慮した事業活動に努めています。

●子供たちへの環境教育支援

地元の小学校が実施している「河川調査」の取組の支援を行っています。社員が、年2回行われる調査と一緒に参加し、子供たちの安全監視や会場設営、荷物の運搬等を行います。社員教育の一環としても大きな意味がある取組だと感じています。



河川調査の取組支援の様子

●作業服のリサイクル

創業90周年に際して、作業服を環境に配慮したエコマーク認定品に変更しました。また、古い作業服は資源として再生利用するために各社員から回収して、RPF（固形燃料）へのリサイクルを行いました。

今後も、使用済の作業服を回収し、リサイクルを進めていく予定です。

●SDGs定着のための取組

会社としてこれまで行ってきた環境の取組や社会貢献活動そのものが、SDGsにつながっているという認識を、社員一人一人に持ってもらうため、全社員が参加する全体会議において、社長自らメッセージを伝えるようにしています。

また、建設現場において、当社のSDGsの取組を看板で掲示するなどにより、日頃の事業活動の中で、現場の担当者と取組の意識共有を図っています。

●SDGsに取り組んだメリット

SDGsの取組を通じて社内外の交流が活性化することにより、社員も新たな知識を得ることができ、視野が広がっていると感じており、社員のやりがいや会社としての成長にもつながっていると思います。

●他社へのメッセージ

『SDGs』を他人事とするのではなく、まずは自分ごと化することが大切だと考えています。そして、自分ごと化するためには、「自分の子供たちに、将来のバトンをどう渡していくのか」と考えてもらうことが大切だと思っています。難しく捉えず、燃料使用量の削減といった、普段の事業活動において当たり前に取り組んでいるようなことが、SDGsにつながっているのだと認識してもらうことが第一歩です。

そして、その活動を少しずつ広げ、レベルアップさせていくことが、SDGsの取組の近道になるのではないかと思います。

●会社概要

真下建設株式会社
本社 本庄市日の出1-5-7
創業 昭和8年8月8日
代表取締役 真下 敏明
HP : <https://mashimo-kensetsu.com/>



古郡建設株式会社

トップ直轄のデザインマネジメント部を中心とした 全社のSDGs推進により、社員の満足度も向上

●取組のきっかけ

当社では、2017年に会社のブランディングに力を入れることを決め、そのために社長直轄の「デザインマネジメント部（DM部）」を2019年に立ち上げました。DM部は、社長の頭の中を見える化する、実行部隊のような組織で、会社のSDGsや健康経営の取組、広報、採用等を中心に担当しています。

設置当初は、建設事業とは関係の薄い部署として、必要性をあまり理解してもらえませんでした。そこで、積極的に現場等へ赴き、SDGsの推進を精力的に行うことで、DM部に対して少しずつ認めてもらえるようになりました。

今では、会社全体がSDGsを中心として事業を進めることができており、現場の社員たちも自ら考えて取り組むことができるようになりました。

●SDGsの取組

・SDGsキャラバン

社員が社内の取組をマッピングし、SDGsを社内に浸透させるための取組として始めました。1か月に1回程度、現場を2,3カ所回って、

17ゴール全てについて取組を分析、評価してもらい、まとめたシートは毎回、幹部・役員、社長まで報告を行っています。

それぞれの現場の特徴や部署によって取り組めることは異なるので、あえてゴールは絞らず、全ての現場で17ゴール全てについて評価するようにしています。

SDGsの取組には、「バックカスティング」の考え方が重要です。建設業は決められた工期の中で、いつ何をするかという計画を立てながら行うため、バックカスティングの思考が身につけており、自然と取り入れることができました。



現場を訪問し取組をチェック



特化しているゴールをボードで表明

・SBT認定の取得

当社は、令和5年9月に科学的根拠に基づく気候変動の目標設定「SBT」の認定を取得しました。

取得にあたっては、高い目標を立て、それに向けて様々な取組を進めていく必要があるなど、なかなか簡単ではないですが、いずれは事業を行う上で必要不可欠になる流れが来るのではないかと先を見据え、社長の決断の下、SBT認定を取得することとなりました。

・プロギング

プロギングとは、「ゴミ拾い」と「ジョギング」を合わせた、スウェーデン発祥のフィットネスです。

社員で参加予定だったマラソンが、ちょうど新型コロナウイルス感染拡大によって中止となってしまったとき、代わりに有志で走ることにりましたが、その際にごみ拾いも一緒にやっていたのかというアイデアが出たことがはじまりでした。当時はまだ「プロギング」を知らなかったが、社員の「何かするなら環境に良いことを」という発想が、偶然にも当社のプロギングの始まりにつながりました。

当社の取組の良い所は、「継続」できている点だと思えます。プロギングの内容も少しずつ変えて、飽きないように工夫することで、意欲的に続けることができています。



地域の皆さまとプロギングの様子

●SDGs定着のための取組

SDGsについて学んで理解できたら、次のステップとして、社内外の様々な機会をとらえてSDGsに関連付けた取組を行うように心がけています。

例えば、企業の経営理念を「クレド（信念・信条）」として小冊子にまとめ、共通の目標・目的を持って社員一人ひとりが顧客にサービスすることや、お客様感謝祭でSDGs

の要素を取り入れた来場者向けスタンプラリーを社員が企画することなどを通じて、色々な角度からSDGsについて考えるきっかけを作っています。

●SDGsに取り組んだメリット

まず、会社のブランディングから取り組み始めたことで、社として目指していることやその姿勢を対外的に明確に発信できるようになり、採用時のミスマッチが減って離職率が大幅に減少しました。

また、SDGsに取り組んだことで、会社に対する社員の満足度が向上しました。「自社スタッフこそ会社の一ファンになる」ことを目指していますが、その実現に大きく近づいていると感じています。

さらに、会社全体がSDGsを中心に事業を進めていけるようになり、現場の社員たちも自ら考えて実行してくれるようになりました。

●他社へのメッセージ

一番重要なことは、トップの意識であり、なぜSDGsに取り組む必要があるのかを理解し、「取り組むのは当然の流れ」という認識を全社員が共通して持てるようになることが大切だと思います。当社の社内研修会には、全ての回に社長自ら参加することで、トップの全力の姿勢を示しました。

会社としてSDGsを進めていくために、まずは全社員にSDGsを身近に感じてもらえるように、研修やカードゲームの活用といった簡単なところから始めてみてはいかがでしょうか。



研修でSDGsカードゲームに挑戦

●会社概要

古郡建設株式会社
本社 深谷市稲荷町2丁目10番6号
設立 大正3年10月
代表取締役 古郡 栄一
HP : <https://www.furugori.co.jp/>